

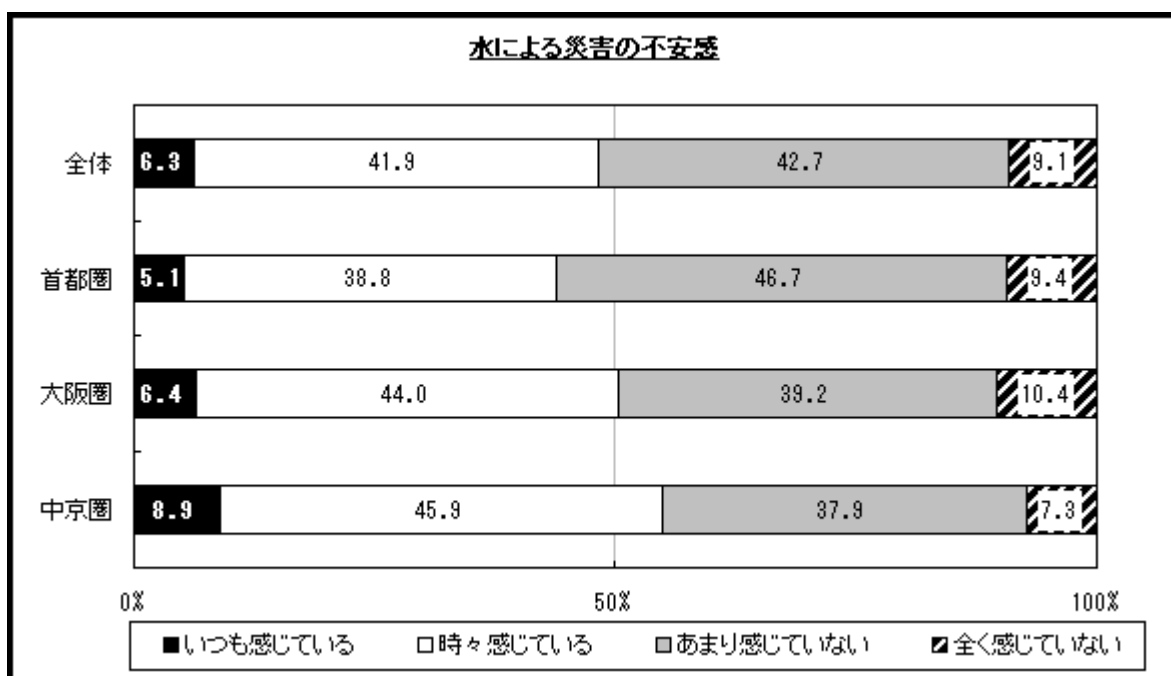
水と災害

Q. 日々の生活の中で、水による災害が起こることに不安を感じているか？

◇48.2%が水による災害の不安を感じている

人間にとってなくてはならない「自然の水」ですが、ときには痛ましい犠牲者がでるほど猛威を振るうこともあります。大都市圏居住者は自らにも起こりうることとして、水による災害を実感しているのでしょうか。

水による災害の不安について聞いたところ、『いつも感じている』が6.3%、『時々感じている』が41.9%で、半数弱の48.2%が何らかの不安を感じているという結果でした。居住地別に何らかの不安を感じている人（『いつも感じている』と『時々感じている』の合計）の比率を見ると、近年、大水害を経験した中京圏では54.8%と半数を超えました。一方、東京圏は43.9%で、中京圏と約11ポイントの差が出ました。



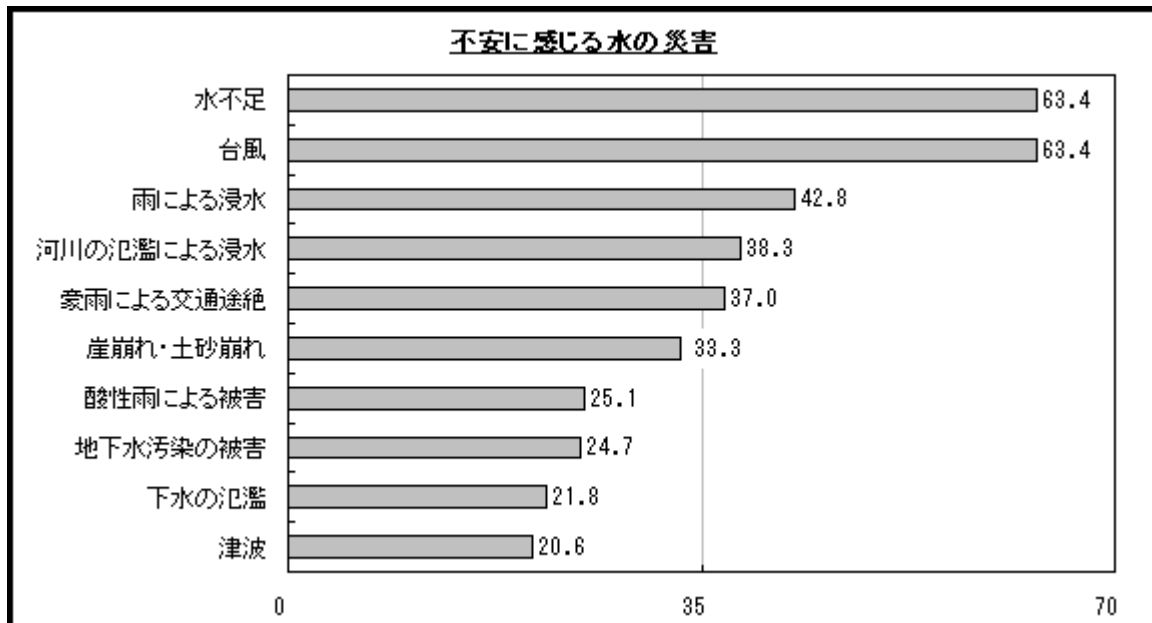
Q. 具体的にどのような災害に対する不安か？（9択+その他/複数回答/前問で『いつも/時々感じている』日人だけ回答/N=243）

◇足りなくても、多すぎても不安…

不安を感じる水の災害のトップは『水不足』と『台風』で63.4%

前問で水による災害について、『いつも不安に感じている』『時々不安に感じている』と回答した人だけに答えてもらいました。

トップは『水不足』と『台風』で、この2つの災害だけが半数を超えました（両者とも63.4%）。給水制限や断水につながり、農作物にも影響する『水不足』と、ときには集中豪雨を伴い、大きな物的・人的被害をもたらす『台風』。水が足りない不安と、多すぎる不安がトップを分け合うという結果になりました。



Q. 災害等で水道が止まってしまったら？

◇ 『行政等の救援の水』を期待、「トイレ」「風呂」は『雨水』や『川の水』の利用も想定

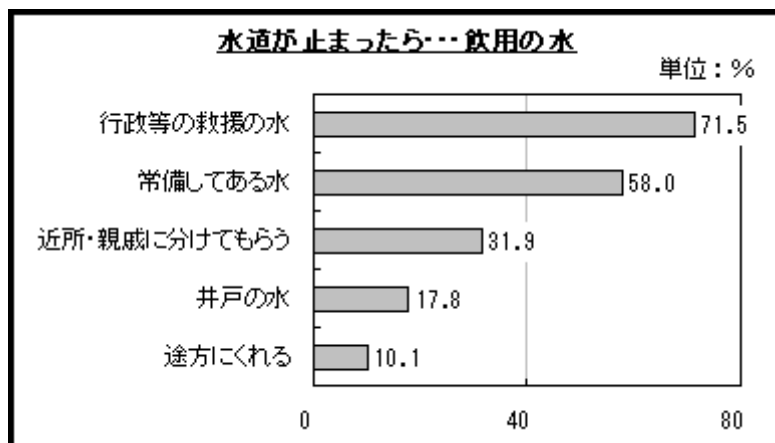
地震などの災害により家庭の水道が止まってしまった場合、「飲み水」「料理」「洗面」「風呂」「水洗トイレ」それぞれに使う水をどうするか聞きました。

その結果、「水洗トイレ」以外は『行政等の救援の水』を使うという回答がトップでした。直接口にする「飲用」や「料理」は『常備してある水』の比率も高く、「風呂」や「水洗トイレ」では『雨水』や『川の水』など“自然の水”の使用を想定している人も見られました。

「飲用」や「料理」では『近所や親戚に分けてもらう』も上位に入っていますが、特に大阪圏で高い回答率になっています。“情が厚い関西”の面目躍如ということでしょうか。

■ 飲用に使う水(10 択+その他/複数回答)

そのまま口に入れる「飲用の水」については、『行政等の救援の水』(71.5%)、『常備してある水』(58.0%)、『近所・親戚に分けてもらう』(31.9%)がトップ3でした。

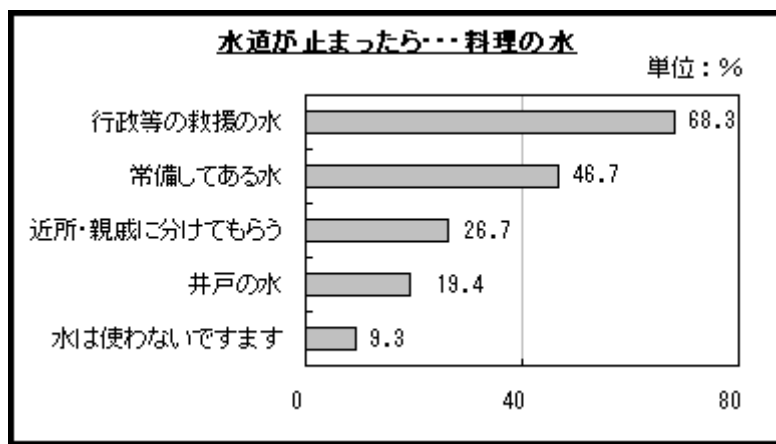


参考：水道が止まったら…『近所・親戚に分けてもらう』の居住地別回答率

	東京圏	大阪圏	中京圏
飲用に使う水	29.4%	39.7%	29.0%
料理に使う水	23.9%	31.7%	27.4%
洗面に使う水	12.2%	23.0%	13.7%
風呂に使う水	9.4%	19.0%	12.9%
水洗トイレに使う水	4.7%	10.3%	6.5%

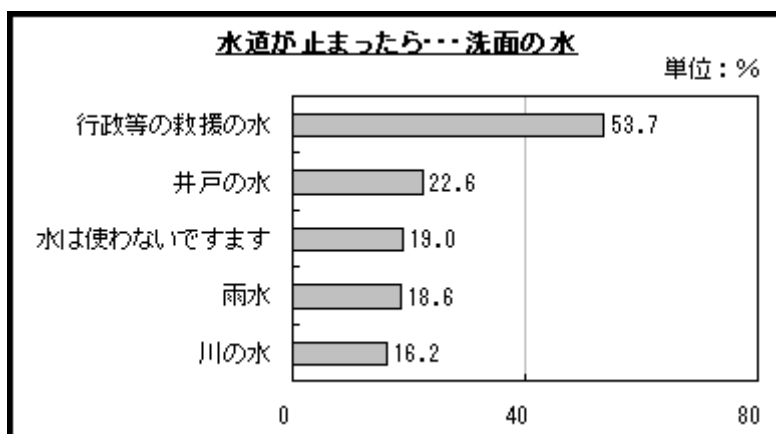
■料理に使う水(10 択+その他/複数回答)

加熱して摂取する「料理に使う水」のトップ 3 は、「飲用の水」と同様、『行政等の救援の水』(68.3%)、『常備してある水』(46.7%)、『近所・親戚に分けてもらう』(26.7%)でした。



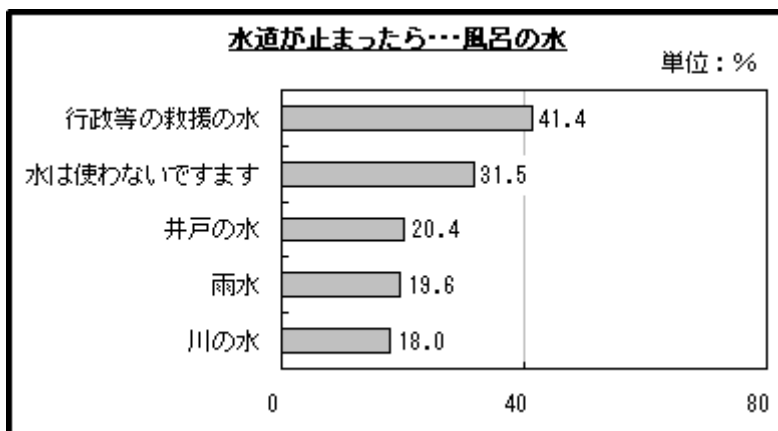
■洗面に使う水(10 択+その他/複数回答)

「洗面に使う水」も 1 位は『行政等の救援の水』(53.7%)でしたが、4 位『雨水』、5 位『川の水』など“自然の水”の利用も想定されています。また、生命に直結する水ではないだけに、『水は使わないですます』が 19.0%で 3 位でした。



■風呂に使う水(10 択+その他/複数回答)

すぐに命にかかわることのない「風呂」ですが、「飲用」や「料理」と同様にトップは『行政等の救援の水』(41.4%)でした。さすがに『使わないですます』が 31.5%で 2 位に入りました。



■水洗トイレに使う水(10 択+その他/複数回答)

災害時に怖いのは伝染病などの2次災害だそうですが、そういう意味でも排泄物の処理は重要です。

水がなければ汲み取り式よりも始末に困る水洗トイレ。『雨水』、『川の水』、『ため池の水』などの“自然の水”で処理しようとする人が多いようです。

